

第9回下総・江戸川ツデーマーチに参加しました



大人だけでなく子どもたちとの交流もありました!



日頃の学びの成果を活かして、栄養指導を実施しました

4月11日・12日、市川市スポーツセンターを中央会場にして開催された、「第9回下総・江戸川ツデーマーチ」に、健康栄養学類の学生が参加しました。学生たちはブースを出展し、来場者の方々にレシピを配布したり、生活習慣病予防の食事について説明するなど、栄養指導を実施しました。健康栄養学類では、この他にも市川市ラグビーフェスティバルや食の祭典などの地域のイベントに積極的に参加し、貴重な現場学習の機会を豊富に設けています。

第29回
管理栄養士国家試験
合格率98.2%

平成27年3月に実施された「第29回管理栄養士国家試験」。今春3月に健康栄養学類を卒業した学生110名が受験し、108名が合格。合格率98.2%という、学生の努力と教員の指導が実を結び、すばらしい結果を出しました。

「東京オリンピック・パラリンピックに向けてできること」

和洋女子大学は東京オリンピック・パラリンピック組織委員会と大学連携協定を締結しています。「東京オリンピック・パラリンピックに向けてできること」と題して、学生たちから企画を募集。その中から、オリンピック種目に20km競歩競技があることにちなんで「自分たちも歩いて20kmを体感してみよう!」とツデーマーチの20kmウォーキングプログラムに学生4名が参加しました。小雨の降る中、4時間35分で全員が完歩しました。



在学生の学費を支える「卒業生寄附金奨学金」にご協力をお願いします
(受付時間 平日9:00~17:00、土曜日9:00~14:00) 経理課 ☎047-371-1113

夏期子ども対象講座

夏休みの期間を利用して、小中高生向けの子ども対象講座を開講しています。ぜひご参加ください。



7/24 夏休み子ども茶摘み&製茶体験教室
対象 小学校2・3・4年生 定員 20名

8/2 夏休み子ども体験ミュージアム
~博物館は楽しいよ!~
対象 小学生以上(高校生・保護者の方も大歓迎です)
問い合わせ先: 文化資料館オフィス ☎047-371-2494

8/1 ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~「光の世界を旅しよう!~光を使った技術のヒミツ~」
(日本学術振興会 KAKENHI 選定講座)
対象 小学5・6年生 定員 36名



8/9 おうちで科学 ~食べものとカラダのふしぎ~ 砂糖のヒミツを知ろう!
対象 小学5・6年生(兄弟、保護者の方も一緒に参加できます) 定員 30名



8/1 親子で祭りずし 千葉の郷土食
太巻き祭りずしを体験しよう~
対象 小学4年生以上・中学生と保護者のペア、または中学生の友達ペア 定員 20組(40名)



8/19 リユースってなあ~に?
対象 中学生以上 定員 10名

オープンキャンパス 予約不要 入退場自由

7/18(土)・8/2(日)・8/22(土)・9/27(日)・11/28(土)

様々な体験型プログラムを用意しています! お気軽にご参加ください。

- 全体説明会 ● 入試相談 ● 体験授業
- 在学生とのフリートーク ● キャンパスツアー ● 学食体験

里見祭(大学祭) 10/31(土)・11/1(日)

今年のテーマは「宇宙~The universe of cosmos~」です。
第7回 ホームカミングデーも同時開催。詳細は大学HPをご覧ください。

今号の表紙 中庭 [西館前] 子ども発達支援コース(現 子ども発達学類)で、幼稚園諭や保育士をめざして学んでいる3年生たち。

和洋女子大学 広報・入試センターでは、学報に関する皆様のご意見やご感想をお待ちしています。メールアドレス(iko@wayo.ac.jp)までお気軽にご連絡ください。



大学HPはこちらから



facebookでも大学の情報を発信しています。
http://www.facebook.com/wayo.unv

Wayo On

和洋女子大学
学報

vol.61

Summer
2015

~堀越千代からの贈り物~
時代に求められる
教育者を育て続けて

② 就職サポート

③ 学生たちの
ボランティア活動



堀越千代からの贈り物

時代に求められる
教育者を
育て続けて



1897(明治30)年の創設以来、和洋女子大学は多くの教員や教育関係者を輩出しています。創設者の堀越千代は時代に先駆けて、「家庭と社会で自立できる女性の育成」をめざし、和裁だけでなく洋裁を学校教育に取り入れた和洋裁縫女学院を開校。さらに、早期から教員養成を行い、一貫して教育者の育成に力を入れてきました。

高橋静香さん
(旧姓：大矢)

東京都立
墨東特別支援学校
家庭科教員



日々の原動力は子どもたちの笑顔です！

東京都立墨東特別支援学校で、中学部3年生の重度重複学級を担当しています。生徒たちの障害の状況は様々なので、それに応じて教育課程を3つに分け、学習グループを編成しています。私は、知的障害を重複し、身体的にも重度の障害を持つ生徒が多く在籍する自立活動を主とする教育課程を担当。そのため、日常的に医療的ケアや身体状況に応じた訓練(ストレッチやマッサージ、立位や歩行の練習など)を行っています。また、身体に障害はあっても、知的障害がなく、通常の学習を行える生徒が在籍する教育課程もあり、そのグループの家庭科の授業も担当しています。彼らが将来、自立して社会で生きていくために必要な力をつけられるよう、スーパーでの買物や電子レンジを使った調理など、生活に密着した実習を多く取り入れた授業計画を立てています。その他に校務として、給食・摂食の仕事を担当。肢体不自由の生徒たちは食べることに課題を抱えていることも多く、摂食指導の勉強をしていく中で、和洋で学んだ知識は大きな糧となっています。

在学中は中学校の教員をめざしていましたが、2年次の養護学校での介護等体験で学校全体の温かい雰囲気と、生徒や先生たちの底抜けに明るい笑顔にすっかり魅了され、進路を特別支援学校に変更。その時から変わらず、私の原動力は「子どもたちの笑顔」です。特別支援学校の言葉のない子どもたちであっても、病氣と闘う子どもたちであっても、心からの笑顔はとても素敵で愛おしい。その笑顔近くで見守り、信頼してもらい、一緒に笑いあえることの素晴らしさ。また、同じ志をもった仲間や先生方とチームで彼らの成長に寄り添えることも、この仕事の大きな魅力だと思っています。生徒一人ひとりの人生が豊かになるような家庭科の授業をするために、日々勉強し、生涯、現場で子どもたちの笑顔を見守ってまいります。

2008年 家政学部 生活環境学科(現 家政福祉学類)卒業



学校の先生たちも笑顔にあふれています

教員として活躍している卒業生たち

富江佐知子さん

共立女子
中学高等学校
英語科教員



イギリスにて。友人たちと一緒に

生徒たちが「何か」を「発見」できる授業を！

教育実習を通して、子どもたちが持つ大きなエネルギーに実際に触れ、一人ひとりの感性の豊かさに刺激を受けました。そして、現場の先生方が皆、とても楽しそうに働いている姿も印象的で、「教員というのは想像以上に楽しい仕事かもしれない！」と思い、英語科教員の道を選びました。卒業後は、都内の中高一貫の女子校に勤務。「英語が苦手」という生徒が多く、教え方を模索しながら教壇に立つ日々。そんな時、イギリスでTESOLという英語教授法の勉強ができるということを知り、自分自身のスキルアップのために思い切って退職。2013年6月から1年間、イギリスのエクセター大学に留学しました。イギリスでは、スピーキングを授業内にいかに取り入れられるかを主に研究しました。

帰国後は、講義中心ではなく生徒中心の授業を心掛けています。グループワークやペアワークを多く取り入れ、お互いの意見について話し合う時間を多く設け、生徒たちが1回1回の授業の中で「何か」を「発見」できるように促しています。生徒たちには英語を受験勉強のためだけに学ぶのではなく、言語として身につけ、英語を通して多くの人と意見を交換することで、視野や見識を広げていって欲しいと思っています。そのためにも、授業には生徒たちの興味・関心を引く工夫を常に取り入れてまいります。

2004年 人文学部 英文学専攻
(現 国際学類 英語文化コミュニケーション専修)卒業

宮野美樹さん
(旧姓：青木)

千葉調理師専門学校
専任教員

調理師をめざす学生を
育てています



在学中は委託の給食会社を志望して就職活動を行っていたのですが、進路支援センターから現職を紹介され、「調理師をめざす学生を育てる」という仕事に興味を持ち、就職しました。主な仕事は、クラス担任としての学生のサポート、栄養学や食品学などの授業担当、調理実習の準備、就職活動のための求人票の見方や履歴書の書き方、面接指導など、多岐にわたります。調理師になるためには調理の技術だけではなく、栄養・食品・衛生についての知識も学ばなければなりません。私が管理栄養士になるために和洋で学んだ知識を、学生たちが調理師になった時に現場で活かせるよう、学びの内容や教え方などを私自身が勉強しながら授業に臨んでいます。

人に教える、指導するということはとても大変なことです。学生たちはそれぞれ育った環境も違いますし、時には教員とぶつかることもあります。けれど、卒業時に、「大変だったけど楽しかった」「ありがとうございました」と言ってもらえると、一緒に学んできて良かった！と本当に嬉しく思います。料理を作る、栄養指導をする。その先には必ず相手となる「人」がいます。人に寄り添い、相手の気持ちになって考えることを忘れずに、学生たちには社会で活躍して欲しいと思っています。

2007年 家政学部 健康栄養学科
(現 健康栄養学類)卒業

子どもが秘めている力に
驚かされる日々です

一昨年の春に卒業し、保育士として静岡県沼津市に採用され、現在、発達に課題を抱えた子どもたちが通っている園で働いています。昨日できなかったことが今日ではできるようになっていくことや、私が提供した遊びがどんどん変化して発展していく様子などに触れる度、子どもたちが秘めている力に日々、驚かされています。

保育園の頃、大好きな担任の先生にメロディオンの演奏を褒められたことが嬉しくて、その時から先生になることに憧れを抱いていました。そして、和洋での学びや実習を経て、やっぱり保育の世界で働きたい！と実感。今の私があります。保育士の道を選んだのは、

三枝史華さん

沼津市児童発達
支援センターみゆき
保育士



子どもたちと一緒に

0歳から6歳までの子どもたちの発達段階や成長過程を側で見るところに魅力を感じたからです。実際に働き始めてみると仕事量は多いですが、子どもの成長と共に自分自身も成長できる、とてもやりがいがある仕事だと思います。後輩の皆さんも夢を叶えて、ぜひ現場で働いてみてください！

2013年 心理・社会学類
人間発達学専修
こども発達支援コース
(現 こども発達学類)卒業

学校づくりに力を注いだ卒業生たち

全国から教員の資格をめざして和洋に入学し、卒業後、学校を創設した卒業生を紹介します。

118年の歴史を経て、全国各地に堀越千代の教えが息づいています。

三島よし

- 1872年 岩手県水沢に生まれる (享年 77 歳)
- 1898年 和洋裁縫女学院洋裁科 卒業
- 1900年 東北女子職業学校 創設 (夫 三島駒治と共に)
(現 三島学園、東北生活文化大学)

佐香ハル

- 1874年 徳島県に生まれる (享年 83 歳)
- 1902年 和洋裁縫女学校洋服科 卒業
- 1903年 神田三崎町に和洋裁女学校 開校
- 1926年 佐香和洋裁女学校 創設 (徳島)
(現 香蘭高等学校)

大妻コタカ

- 1884年 広島県に生まれる (享年 85 歳)
- 1902年 和洋裁縫女学校で洋裁を学ぶ
- 1903年 和洋裁縫専門女学院で和裁を学ぶ
- 1908年 裁縫・手芸の家塾を開設
→東京女子技芸教授所 (現 大妻学院)

岩崎春子

- 1901年 静岡県に生まれる (享年 86 歳)
- 1924年 和洋裁縫女学校 卒業
- 1927年 横浜裁縫専門女学院 創設
→岩崎博物館 (ゲーテ座記念会館)

能森米子

- 1901年 富山県富山市に生まれる (享年不明)
- 1928年 和洋女子専門学校 卒業
- 1947年 能森文化服装学院 創設

志賀フヂ

- 1903年 鹿児島県に生まれる (享年 89 歳)
- 1921年 和洋女子専門学校高等師範科 卒業
- 1926年 鹿児島高等実践女学校教諭となる
- 1948年 財団法人実践学園理事長に就任
→鹿児島女子大学

横尾とき

- 1894年 千葉県印旛郡に生まれる (享年 89 歳)
- 1923年 和洋裁縫女学校高等師範科 卒業
- 1929年 長狭実践女子学校 創設 (安房鴨川)

小林倭文

- 1907年 長野県に生まれる (享年 97 歳)
- 1929年 和洋女子専門学校高等師範科 卒業
- 1934年 長野和洋裁縫女学校 創設
(現 長野家政学園)

平方ウタ

- 1911年 群馬県館林市に生まれる (享年 91 歳)
- 1931年 和洋女子専門学校 卒業
- 1933年 平方裁縫女学校 (父親が創設) 教諭となる
- 1973年 明和女子短期大学学長に就任

関口富左

- 1915年 群馬県に生まれる (享年 99 歳)
- 1933年 和洋女子専門学校 卒業
- 1947年 郡山女子専門学校 創設
(現 郡山女子大学)

溝部ミツエ

- 1900年 大分県に生まれる (享年 64 歳)
- 1936年 和洋女子専門学校 卒業
- 1946年 溝部学園 創設 (別府)
- 1964年 別府溝部短期大学 設立

関崎悦子

- 1948年 群馬県桐生市に生まれる
- 1971年 和洋女子大学文政学部生活学科卒業
- 1997年 学校法人桐丘学園理事長に就任
(現 桐生大学)

真栄田幸子

- 1932年 沖縄県コザ市に生まれる
- 1958年 和洋女子大学家政学部被服学科 卒業
- 1970年 沖縄高等和裁技能専門学校 創設
(現 専修学校沖縄和裁専門学校)

今も現役で
和裁を教えて
います



縫うこと、作ること、
教えることが好き

大澤敬子さん(旧姓：磯田)

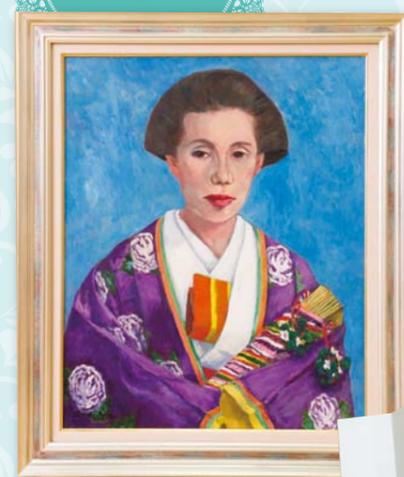
1942(昭和17)年9月
和洋女子専門学校本科一部卒業
(戦争のため、半年、短縮で卒業)

和裁の先生になりたいと、昭和15年4月に和洋女子専門学校に入学。戦時中で物が無い中、着物を洋服に作り替えて着用したり、洋裁の村田先生の発案で、私たちのクラスの生徒たちがキュロットスカートの制服を作ったりもしました。教材や材料が手に入りやすい時代でしたが、雛形を作ったり、部分縫いをしながら、様々な技術を学ぶことができました。袴や千代田袴の作り方、日本刺繍を習ったことは後に大変役立ちましたし、和服の二部式などは、今思えば随分と新しい技術だったと思います。卒業後は女学校や専門学校、コミュニティセンターなどでも和裁を教えてきました。現在は自宅で週に3日、教室を開いています。生徒の皆さんが「作りたいもの」の作り方を教えるだけでなく、あまり着なくなった着物や洋服を時代に合ったものにリフォームする方法や、物を大切にすること、日本の民族衣裳を捨てないこと、着物と着用の美しさを尊重することも伝えています。簡単な夏衣や綿入等の製作、仕立依頼も受けています。裁縫を教え続けてきた人生ですが、教えることは学ぶこと。これからも学び続けていきたいです。



Episode

堀越千代のエピソードや
同窓会のトピックスをお知らせします



堀越千代肖像画が、むら竹会和洋女子大学同窓会副会長の永瀬富士子氏により制作され、2015年3月に新しい同窓会室*に収められました。現存する、昭和3年新年拝賀の記念写真(モノクロ)を基に、時代考証を大塚倫子氏に依頼しました。

*同窓会室は新体育館内に設置



これからは洋服の時代が来る！和洋裁縫の技術は女性の自立につながるかと確信して学校を作ったそうです

80歳になってから謡曲のけいこを始めるなど、常に新しいことにチャレンジする人でした

春は上野のお花見、初夏は神田のお祭りへ。忙しい日々でも季節の行事を楽しむことを大切にしていました



教員をめざす在学生たち

和洋で学んだ人が先生になるべきだと思います

戸邊朱音さん

生活環境学類 生活環境学専修
生活科学コース4年(現 家政福祉学類)

私たちの悩みや問題を、いつも共に考えてくださった高校の先生の影響で、教員になりたいと思うようになりました。いろいろなことを幅広く学ぶなら、生活環境学類しかない!と思って入学。衣・食・住、福祉、どの授業も興味を惹かれるものばかりで、ここで学べばオールマイティーな家庭科教員になれると思いました。教えることは、学ぶこと。生徒と一緒に自分も成長できる先生になりたいと思っています。



家庭科教員をめざしています!

人のため、子どものために
生きる仕事をしていきたい

江口 舞さん

英語・英文学類
英語コミュニケーション専修4年(現 国際学類)

幼い頃から、教えることや小さい子の面倒を見るのが好きでした。自分の知っていることを理解してもらったり、それが人のためになることが嬉しくて。中学2年の時に職場体験学習で幼稚園に行き、「子どもたちと共に成長できる」、「教育」という仕事の魅力と素晴らしさを感じて、教員を志すようになりました。一人ひとりの個性を伸ばし、生徒に寄り添い、支えることのできる教員になりたいです。



英語科教員をめざしています!

すごい人たちが
たくさんいますね



就職基本講座を年10回、開講!

進路支援センターでは3年生対象の就職基本講座を実施。この講座では、自己分析にはじまり、自己紹介、自己PRの練習、履歴書やエントリーシートの作成方法などを学びます。また、業界研究や具体的な会社選択、面接に向けての対策なども行い、学生の就職活動をバックアップします。

第1回就職基本講座

全講座は人文学群・家政学群ごとに行われます。第1回目の講座では、まず講師の先生から就職に対しての心構えや就職活動の流れについての説明があり、その後、学生たちは実際の就職試験で行われているグループワークに挑戦しました。



6人ずつグループを作り、それぞれの名前・出身地・趣味を覚えるというグループワーク。実際の就職試験でも行われるもの



和洋の学生たちを長年、指導してくださっている外部講師の竹村智子先生。明るく軽快な口調で学生たちを惹きつけます



15秒間という限られた時間の中で、自己紹介と自己PRをする練習

講座を受けてみて...

阿部侑奈さん 英語・英文学類 英語コミュニケーション専修3年 (現 国際学類 英語文化コミュニケーション専修)

人文学群

企業説明会では、受付で挨拶ができていないか否かもチェックされるという竹村先生からの話を聞き、就職活動の大変さを痛感しました。けれど、初回の講座で自己PRやグループワークを体験してみると楽しくて、講座を受けて良かったと感じました。すべての講座で学んだことを活かして、就職活動に反映させていきたいと思っています。今後は、インターンシップにも参加してみたいです。



水落梨花さん 服飾造形学類 服飾造形学専修3年

家政学群

就職活動とは何をするのか、詳しいことがわからず不安でした。講座を受講してみて、いよいよ私も就職するんだという自覚が芽生えました。「やる」と決めたことは納得いくまでやり遂げるところが私の長所。人と関わることや、人に喜んでもらうことが好きなので、自分が考えた企画やスタイリングで多くの人に喜んでもらえるような仕事に就けるよう頑張っていきたいと思います。



就職率

95.1%

平成26年度卒業生の主な就職先

平成27年度5月1日現在

●人文学群

(株)三井住友銀行、SMBC日興証券(株)、(株)千葉銀行、(株)千葉興業銀行、野村證券(株)、ちばぎん証券(株)、千葉信用金庫、(株)常陽銀行、住友生命保険(相)、(株)サマンサタバサジャパンリミテッド、(株)ジーユー、戸田建設(株)、広島建設(株)、リゾートトラスト(株)、(株)飯田産業、三井不動産リアルティ(株)、(株)LIXILピバ、しのはらプレスサービス(株)、米屋(株)、幼稚園教諭・保育士(習志野市、千葉市、墨田区、台東区、葛飾区)、(学)森島学園、(学)渋谷教育学園、(学)市川東学院

●家政学群

(株)千葉銀行、日本郵便(株)、第一生命保険(株)、全日空商事デューティーフリー(株)、大和ハウス工業(株)、住友不動産販売(株)、前田道路(株)、(株)三越伊勢丹ホールディングス、(株)ビックカメラ、富国生命保険(相)、(株)ライトオン、(株)クロスカンパニー、積水ハウス(株)、山崎製パン(株)、(株)ニチレイフーズ、日本ハム食品(株)、日本食研ホールディングス(株)、(医)IMSグループ、エムサービス(株)、東京納品代行(株)、渡辺パイプ(株)、岡部バルブ工業(株)、千葉県教育委員会、千葉県印西市立印旛中学校、管理栄養士(千葉県)、栄養士(千葉市、東京都等)、学校栄養職員(千葉市)

学生たちのボランティア活動

サークル活動紹介!

市川てらこやで子どもたちと交流

市川てらこやは、和洋女子大学、千葉商科大学、聖徳大学の学生メンバーと、大人サポーターたちが合同で活動しているボランティア団体です。現在、約40名の学生が参加しています。

私たちが「わよ*てら」のメンバーです!



弘法寺での合宿の様子。食法を学んでいます

子どもたちのおやつデコレーションづくり

「てらこや」とは? 地域の子どもたちと大学生、大人が3世代で交流し、お互いが地域で共に育っていくことをめざして作られた、現代版「てらこや」。この活動は、2008年に鎌倉ではじまり、現在は日本全国36箇所、地域ごとの活動の他、全国の子どもたちの交流を促進する事業などを行っています。市川てらこや <http://ichitera.wix.com/home>

「てらこや」の活動を通じて、ボランティアで地域の小学生の子どもたちとの交流を深めているのは、サークル「わよ*てら」の学生たち。2013年10月、和洋女子大学の近隣にある弘法寺で開催された、てらこやの合宿に参加した学生たちが、「私たちが自主的にやってみよう」と市川てらこやを結成。12月にはサークルを作り、現在は、毎月1~2回、弘法寺で子どもたちと遊んだり勉強したりする「弘法寺てらハ」の活動を中心に、合宿やスポーツ大会、クリスマス会などを企画・運営して活動しています。

健康栄養学類 健康栄養学専修4年 白井綾さん

この活動の魅力は、笑顔あふれる子どもたちや全国の仲間とともに自分自身も成長できること。自分が考えた企画で喜んでくれた時の達成感や信頼される嬉しさ、一緒に頑張れる仲間を見つけられて、充実した毎日です。



身近にできることから!

わよボラでボランティア活動

わよボラは2011年に発足した、和洋女子大学の登録制ボランティアチーム。毎年、多くの学生が登録して、ボランティア活動にチャレンジしています。発足以来、延べ780人の学生が参加しています。

学内清掃や挨拶運動、自転車整備(学内)、募金活動(刺子ぶきんを制作・販売し、収益を寄付)、市内のごみ拾いなどの地域と連携した活動を行っています。学生たちは身近な活動からボランティアのやりがいや楽しさを学んでいます。

学内の自転車整備



市内のごみ拾いの様子。年に6回行います

健康栄養学類 健康栄養学専修4年 畑中未玖さん

入学後、何か新しいことを始めたい、沢山の人と交流したい!と思い、わよボラに参加しました。「幅広い世代の人と交流する楽しさ」、「仲間と協力して活動を継続すれば目標を達成することができるという自信」を得ました。

